



2021 年 12 月 20 日
東日本旅客鉄道株式会社
創造旅行社股份有限公司
創造台日交流有限公司

JR 東日本初の台湾訪日旅行者向け情報サイト「JR TIMES」をオープン ～情報発信から購買まで一貫した訪日プロモーションを実現～

- 東日本旅客鉄道株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：深澤 祐二、以下「JR 東日本」）は、コロナ後のインバウンド回復に向け、JR 東日本初の台湾訪日旅行者向け情報サイト「JR TIMES」（以下、本サイト）をオープンします。
- 台湾は JR 東日本の鉄道パスを最もご利用いただいており、リピーターも多く存在するマーケットで、「日本」、「鉄道」への関心や訪日意欲の高い顧客が多くいます。
- 昨今、より正確でスピーディーに、交通をはじめ、地域の文化、食、産品など旅先で欲しい情報などをご提供できるプラットフォームが求められています。
- 本サイトは、訪日できる時もできない時も、「日本」、「鉄道」をきっかけに集まる、顧客同士（CtoC）の交流のきっかけとなるよう、さまざまなコンテンツやイベントを通じて絶えず日本のモノやコトとつながることができるプラットフォームを提供いたします。
- JR 東日本、日本航空の各グループが台湾に共同で設立している「創造旅行社股份有限公司（董事長：大川戸修二）」は、「創造台日交流有限公司（董事長：大川戸修二）」を設立し、本サイトの運営を行います。

1. ウェブサイトの概要

- ・サービス名称：JR TIMES <https://www.jrtimes.tw/>
- ・サービス開始：2021 年 12 月 21 日
- ・言語：中国語（繁体字）



■ウェブサイトトップページ(イメージ)



←台湾や鉄道・日本通のライターが、自信を持ってお届けする記事や、動画コンテンツを通じて日本を知っていただき、そこでおすすめした商品を実際に購入いただくことで、日本・鉄道ファンとの交流を促進するサイトです。

■記事(イメージ)



←特選地域の例
地域で見つけたヒトやモノ。モノづくりにかける熱い思いなど、台湾など海外のライター目線で掘り下げた情報を記事と画像でお届けします。

■動画(イメージ)

→動画(鉄道)の例
新潟・山形(庄内)の食と景観を楽しむ列車「海里(かいり)」、フルーツ王国福島オリジナルスイーツを車内でいただける「フルーティアふくしま」など、鉄道をフックに、地域のストーリーを、記事や動画にご紹介します。



2. 本サイトでご提供する情報・サービス

(1) 「鐵道紀行」

JR 東日本をはじめとした新幹線やイベント列車など全国の鉄道にフォーカスした情報や記事を配信します。

(2) 「旅遊札記」

鉄道以外でも行ってみたい地域や、体験したいコト、モノなどの情報や記事を配信します。

(3) 「精彩必看」

都道府県など特集エリアを定め、実際に取材し、地域との会話により発見・発掘したモノやコト、アクセスなどの情報を動画で配信します。

(4) 「厳選小物」

なかなか手に入らない地域産品（宝モノ）や、J R 東日本グループならではの特撰品をご紹介します。1 月以降、数量限定の商品などなかなか手に入らない商品もオンライン販売していく予定です。

(5) 「活動盛事」

日本の地域とオンラインで結ぶイベントや、台北などで展開している JAPAN RAIL CAFE などリアルの場合での顧客との交流イベントの状況をアーカイブでお知らせします。

(6) 「JR 東日本」

J R 東日本社員がご紹介する、鉄道ファンにはたまらないここだけの情報をはじめ、お客さまからお問い合わせの多い鉄道や Suica など商品や設備のご利用方法などをご紹介します。

また、本サイトから「JR-EAST Train Reservation」にて、「JR EAST PASS」をはじめとするご旅行に最適なパスを便利に購入いただけます。

チャットボットサービスにより、サイトのご利用にあたってのご質問、列車の予約や最適なパスのご案内などもストレスフリーにご利用いただけます。

※JR-EAST Train Reservation とは

訪日・在留外国人旅行者を対象とした海外版えきねっと（インターネット J R 券申込サービス）です。指定席予約、訪日・在留外国人向け鉄道パス、新幹線 e チケットの販売などを 9 言語にてサービス展開しています。

(1)「鐵道紀行」

乗ること自体が旅。鉄道ファン向けに、様々な列車にまつわるストーリーをご紹介します。



(2)「旅遊札記」

鉄道以外にも、地域で光るコトやモノ、体験、駅社員おすすめのおみやげ等をご紹介します。



(4)「厳選小物」

地域で見つけた宝モノや、JR 東日本グループならではの厳選品など、モノづくりに秘めたストーリーとともにをご紹介します。

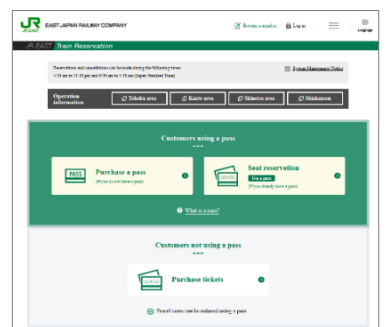


(6)「JR 東日本」

駅での困りごと、システムの操作方法など、お客さまの安心・安全な旅をサポートする情報をご紹介します。



JR-EAST Train Reservation



3. 配信するコンテンツの一例と今後の予定

本サイトでは台湾のみなさまに人気のエリアを選び、「特選地域」として記事や動画で詳しくご紹介するほか、地域の特色ある商品やこだわりの商品などを数量限定で販売します。

(1) 特選地域「栃木（とちぎ）」

第1回の特選地域は、台湾の皆さまにも親しみ深い、栃木（日光、那須など）です。東京から、「JR EAST PASS」や「JR TOKYO Wide Pass」などの鉄道パスで、新幹線を利用すれば約1時間でアクセスでき、気軽に周遊できる人気エリアです。観光やアクセス、そこで活躍するヒトやモノをご紹介します。

特集エリア

日光エリア



▲日光山輪王寺。栃木県日光市にある寺院で、東照宮、二荒山神社とあわせて「二社一寺」と称されています。



那須エリア



▲那須フラワーワールド。那須連峰を背に、標高600メートルの高原に咲く広大な花々の世界。

益子エリア



▲道の駅まじこ。益子で育った新鮮な農産物や加工品、工芸品などの物産を直売しています。

モノづくりの匠

日光エリア（藍染の匠）



小沼雄大さん（藍染）

1804年創業 黒羽藍染紺屋 八代目店主。
栃木県認定伝統工芸士として黒羽藍染を引き継ぐ唯一の職人。伝統を若い世代に広めるため、モダンなデザインや普段使いができるTシャツやスニーカーといったアイテムにも取り組む。
また日光を代表する旅館とのコラボレーションも話題。

黒磯エリア（レザーの匠）



北野憬さん（レザー職人）

大手革靴メーカーにて11年間職人として活躍。
その後、2017年に栃木県黒磯に手作り革靴・革小物の工房兼店舗を立ち上げ、店主自ら革の裁断から縫製まで、一つ一つ丁寧に創り上げている。1年を通して、様々な作品を生み出し、多くのファンを持つ。

益子エリア（益子陶芸の匠）



中村かりんさん（益子陶芸）

栃木県益子町で陶芸家として活躍。
2006年に友人に誘われて陶芸体験をしたことがきっかけとなり、2010年陶芸が盛んな益子町にて独立。
愛らしい動物モチーフとパステルカラー、そして繊細な絵付けが特徴。作品が発表されるとすぐに買い手が付いてしまうほどの人気作家。1年を通して、様々な作品を生み出し、多くのファンを持つ。

(2) 今後の予定

◆ 2月頃 第2回特選地域「新潟（にいがた）」

新潟は「JR EAST PASS」を使って上越新幹線で訪れるのに便利な、台湾でも人気のエリアです。観光ではアートで有名な十日町エリアを、モノづくりでは三条エリアを探访する予定です。

◆ 3月頃 第3回特選地域「青森（あおもり）」

東京からも、北海道からも、青森空港からもアクセス便利で、りんご、祭りなど、青森は台湾でもよく知られた観光地です。青森の隠れた観光スポットや、モノづくりを探访する予定です。



- ・商品販売について詳しくは2022年1月ごろにJR TIMES サイト (<https://www.jrtimes.tw/>) や、JR 東日本の台湾向け Facebook (<https://www.facebook.com/jprailcom>) にてお知らせします。
- ・今回、台湾の皆さま向けに数量限定でモノづくりの匠がつくる商品のオンライン越境販売を予定しています。是非、Facebook のフォローをお願いします。

4. 本サイトの運営体制

JR 東日本グループの株式会社びゅうトラベルサービスと、日本航空（JAL）グループの株式会社ジャルパックが共同で出資している台湾の旅行会社「創造旅行社股份有限公司(CREATIVE TRAVEL (TAIWAN) LTD. ; JRECTT)」は、日本、鉄道に関心のある顧客のコミュニケーションをより活性化するサービスを提供するため、目的子会社「創造台日交流有限公司（CREATIVE COMMUNICATION LTD. ; JRECC）」を設立し、本サイトの運営にあたります。

会 社 名 称	創造台日交流有限公司 CREATIVE COMMUNICATION LTD.（略称：JRECC）
資 本 金	50 万台湾元
出 資	創造旅行社股份有限公司（100%）
設 立 日	2021 年 11 月 25 日
申 請 業 種	1. Web サイト企画 2. プロモーション 3. コンテンツ作成 4. 物販 5. イベント開催・募集 6. 市場調査 7. カスタマーサービス

<会社ロゴ>



台湾と日本が、互いのヒトやモノやコトを知る。
いつかリアルな交流ができる。
訪問できないときもデジタルでつながる。
JRECC は、そのようなサービスの提供を目指していきます。